

## ・アウトリーチ活動

・述べアウトリーチ回数:13回

(うち、2回はスケジュール上会えず)⇒実質11回

対面した人数:21人(訪問時に会った家族含む)+猫4匹

\* 年齢、状況はさまざま

- 例** すでにひきこもり状態は脱し、安定してきているケース。  
家族関係、家族全体が困難な状況にあるケース。  
地域事情から突破口を見つけることに苦戦しているケース。  
採用面接の失敗が続き疲弊しているケース。  
発達の偏りが感じられるケース。  
独特の事情があるケース。

\* 会う場所もさまざま

自宅、商業施設、飲食店で昼食をともにしながら、関係機関でケース会議。

## ・アウトリーチ活動

・事前情報による分析、見立て(アセスメント)+訪問時の気づき

「配慮事項は何か？」(NGポイント、発達面、精神面)

「どういった入り方(訪問の仕方)があるか」

(初対面での自己紹介、家族の誰がキーパーソンか、)

「こちらの雰囲気はどのような感じがよいか」

(キャラクター、テンション、役割、モデル、年配の方の場合はこちらが教えてもらうという立ち位置をとる等)

「何を話題にできそうか」

(興味関心のあること、関係作りに役立つもの、目的意識)

最初の顔合わせ的な意味合い、訪問時の部屋の様子、本人の表情や服装、支援者への配慮、家族の関わり、問題意識の芽生え(改善解決への意欲)、次回につながる話題探しなど、観察や注意を怠らない中での関係作り、意図をもった関わり。

## ・まとめ (学んだこと)

- ・徹底した危機(リスク)対応、リスク回避の意識  
関係性を作っていくため、支援の失敗を防ぐため、何より支援者本人の安全を守るため。
- ・本人、その家族を尊重した関わり  
それぞれに価値観や大事にしていることが違う。  
押し付けや説教的な関わりではない支援者の存在。
- ・具体的であり、見通し(支援の入り口と出口)を持った支援  
いつ頃までにどのようなねらいを持って、どんな関わりをしていくか。必要であれば、関係者にその意味やねらいが的確に説明できることが求められる。  
支援のゴールは何か。完全に支援が終わるのではないとすれば、現状から少し距離を置いて見守ることができる条件は何か。

## ・まとめ (学んだこと)

- ・組織の発展、戦略的人材育成、地域参画  
年齢や経験に応じた支援者の育成、養成。事業運営・経営。  
安定した成果を出すための専門性の維持向上と対外的な信頼性の獲得。(成果をあげる活動)  
県内、組織内でより良い支援を行うことのできる人材を育成していく「人を育てる」という観点。  
若手にしかできない立ち位置、役割。(お兄さん、お姉さんとしてモデルとなりやすい斜めの関係)  
30代になり、1スタッフとしてだけではなく、若手をけん引する立場、新人を指導する立場の育成。新人からの相談に対応できる能力。(ミドルクラス、相談責任者による組織運営)  
新たな協力者、支援者、支援先の開拓、創造。(職親、就労体験、ボランティア受け入れ先の開拓、需要を見つけて活動にできるだけの地域社会を巻き込んでいく力)



研修生⑤  
特定非営利活動法人 NPOスチューデント・  
サポート・フェイス

# アウトリーチ(訪問支援)研修

*Iwate Panorama Fukushikan*

NPO法人いわてパノラマ福祉館